

ジャック・ティツ

ジャック・ティツは1930年8月12日、ベルギー、ブリュッセルの南の郊外、ユクルで生まれた。2000年にパリ、コレージュ・ド・フランスの教授職を退き、以来、名誉教授である。

数学者の父を持つジャックは、早くからその才能を現した。彼は三歳であらゆる計算をすることができ、学校では何学年かを飛び級した。ジャックがわずか十三歳の時に父が亡くなった。家族には財産も殆どなく、ジャックは家計を助けるために四歳年上の学生の家庭教師をし始めた。彼は十四歳でブリュッセル自由大学の入学試験に合格し、1950年、二十歳で博士号を授与された。

ティツは1962年にブリュッセル自由大学の教授に昇進し、二年後、1964年にボン大学の教授職に就いた。1973年にパリに赴いてコレージュ・ド・フランスの群論講座担当の教授職に就き、その後まもなく、1974年にフランスに帰化した。ティツは2000年に退職するまでこの教授職に留まつた。

ジャック・ティツは1974年以来、フランス科学アカデミーの会員である。1992年には米国国立科学アカデミーとアメリカン・アカデミー・オブ・アーツの外国人会員に選ばれた。また、オランダとベルギーの科学アカデミーの会員でもある。彼はユトレヒト大学、ゲント大学、ボン大学、リューヴェン大学から名誉博士号を授与されている。

ティツはウォルフ賞、カントール・メダル、数学物理学グラン・プリ、ウェットレムズ賞等、数多くの賞を受賞している。1995年にはシュヴァリエ・ド・ラ・レジオン・ドヌールに、2001年にはオフィシエル・ド・ロルドゥル・ナシオナル・ドユ・メリに指名された。

彼自身の数学研究の他にもティツは国際的な数学界において中心的な役割を果たしてきた。彼は1980年から1999年までフランス高等科学研究院の数学の出版物の編集長であった。1978年と1994年にはフィールズ・メダル受賞者選考委員を務めた。また1985年以来、バルザン賞受賞者選考委員を務めている。

ジャック・ティツの著作には驚くべき数にのぼる根本的且つ開拓的な数学のアイディアが含まれており、それ故に彼は現代における最も影響力のある独創的な数学者のひとつとされるのである。